

政務活動費収支報告書

令和5年 4月 4日

島田市議会議長 大石 節雄 様

議員氏名 大村 泰史



令和4年度の政務活動費について、次のとおり報告します。

単位：円

収入の部	項目	決算額	摘要
	政務活動費交付金	200,000	
	計	200,000	

単位：円

支出の部	項目	決算額	摘要
	調査研究費		
	研修費	33,600	地方議員研究会セミナー
	広報費		
	広聴費		
	要請・陳情活動費		
	会議費		
	資料作成費		
	資料購入費		
	その他の経費		
	計	33,600	






政務活動費残額 166,400 円

※ 調査研究その他の活動の概要及び領収書を添付してください。



政務活動費支出決算額明細書

項目	支出明細		領収書貼付 用紙の番号
研修費			33,600 円
	地方議員研究会セミナー 研修名 基礎からわかる認知症問題 基礎からわかる学校統廃合 受講 開催場所 (日時) 東京都千代田区 (R4.7.7) 33,600 円		
	・旅費	13,600 円 /	1
	・受講料	20,000 円 /	2
計			33,600 円

	議 長	副議長	事務局長	次 長	係 長	担 当
決 裁						

領収書貼付 用紙の番号	1
----------------	---

政務活動出張申請書

令和4年6月20日

島田市議会議長 大石節雄 様

島田市議会議員 大村泰史 

市政調査研究（調査研究・研修）のため、下記に出張をたく届け出ます。

出張年月日	令和4年 7月 7日(木)
出張先	リファレンス新有楽町ビル(新有楽町ビル2階) 東京都千代田区有楽町1丁目12-1
出張の目的	研修名 基礎からわかる認知症問題 基礎からわかる学校統廃合 主催者 地方議員研究会 大阪府大阪市北区梅田1-2-2 上記、研修に参加する為
行程・利用交通 (交通手段の理由)	別紙の行程表(交通費計算書)による。
旅費	別紙 政務活動出張旅費支出伝票による

特別価格/

1講座

10,000円

先輩議員とは違う視点

議員20年の経験から語る

基礎講座



講師ご紹介

みやもと しょういち

宮本 正一

元寝屋川市議会議員、
日本公共経営研究所代表、
吉野町役場政策アドバイザー

1967年大阪府寝屋川市生まれ。ポストン・ウェントワース工科大学卒業後、神戸大学経営大学院でMBA(経営学修士)、大阪市立大学大学院で医学博士号を取得。

政治略歴

平成7年に27歳で市議会議員に無所属で当選後、5期20年間務める。第54代寝屋川市議会議員。

現在、日本公共経営研究所代表、同志社大学生命医科学部研究員、奈良県吉野町役場政策アドバイザー

in 東京

7/7 木

in 京都

8/3 水

10:00~12:30

基礎からわかる認知症問題

- ・脳の正体をまず理解しよう
- ・アルツハイマーと認知症の違いは?
- ・症状別の認知症対策
- ・議員が押さえない介護保険制度
- ・あなたが認知症になったら?と考えてみる大事さ
- ・認知症予防について提言

14:00~16:30

基礎からわかる学校統廃合

- ・なぜ統廃合の議論か?をみんな間違えている
- ・学校の適正規模と適正配置
- ・少子化に対応した活力ある学校教育
- ・寝屋川市での統廃合事例を議員目線で、時系列で学ぶ
- ・廃校活用の官民連携事例
- ・市民の立場と議員の仕事を混同しない考え方

in 東京

7/8 金

in 京都

8/4 木

10:00~12:30

10年目までの議員向け特別セミナー1

- ・初当選議員が失敗するポイント
- ・知識がない議員の発言は誰も聞かない
- ・議会のルールに翻弄される
- ・質問する際におさえるポイント
- ・大学教授や、先輩議員に質問の仕方を訊くと必ず失敗するわけ

14:00~16:30

10年目までの議員向け特別セミナー2

- ・20年の経験から見る、議員と職員の付き合い方
- ・議員と議会の権限の再確認
- ・質問のための情報収集4つのノウハウ
- ・何故、あなたの質問に執行部は答ええないか
- ・2000人以上にセミナーで伝授した、役所の答弁への切り返し方

	議長	副議長	事務局長	次長	係長	担当
決裁						

領収書添付
用紙の番号

政 務 活 動 出 張 旅 費 支 出 伝 票

出張日	令和 4 年 7 月 7 日 ~ 令和 4 年 7 月 7 日				
出張先	リファレンス新有楽町ビル				
旅費	交通費	宿泊費	日当	参加者負担金等	
下記計算の 基礎参照	13,600円				
				計	13,600円

計算の基礎




旅 程	金谷 ~ 東京 ~ 有楽町 ~ 東京 ~ 金谷 ~					合計	427.4 km
鉄道運賃	※601キロ以上は往復割引適用(同一経路のみ)、地下鉄等は2キロ以上から ↓片道キロ数						
	金谷	~	有楽町	(213.7 km)	往復		7,480 円
				(km)	往復		円
				(km)	往復		円
				(km)	往復		円
					計		7,480 円
加算運賃 (JR北海道、四国、九州)				km			円
					鉄 道 運 賃 計		7,480 円
特急料金等	※乗継割引利用な場合は利用、座席指定の可否確認、片道キロ数確認						
新幹線	静岡	~	東京	(180.2 km)	往復		6,120 円
在来線特急		~		(km)	往復		円
在来線急行		~		(km)	往復		円
座席指定料金		~		(km)	往復		円
車賃(バス・タクシー)		~		(km)	往復		円
航空賃、船賃		~			往復		円
					交 通 費 合 計		13,600 円
宿泊料	@13,100 × 泊						円
日当	@2,600 × 日 + @1,300 × 日						円
	↓日当の調整がある場合は、理由を記載すること						
							円
その他							円
					旅 費 合 計		13,600 円

金谷 → 有楽町

2022/07/11(月) 12:00 到着

09:51発 → 12:00着 総額 6,800円

所要時間 2時間9分 乗車時間 1時間55分 乗換 2回 距離 213.7km


	経路	乗車位置	運賃	指定席/料金	距離
	○ 金谷				
09:51-10:21 30分	 JR 東海道本線(東海)(興津行)	やや前・やや後	3,740円		32.7km
乗換4分 待ち0分	○ 静岡	1番線着			
10:25-11:48 83分	 新 こだま708号(N700系)(東京行)	中央	↓	指定席 3,060円	180.2km
乗換8分 待ち2分	○ 東京	17番線着 5番線発			
11:58-12:00 2分	 JR 山手線品川方面行	3・6・7号車	↓		0.8km
	○ 有楽町	3番線着			

記号の説明

△ … 前後の時刻表から計算した推定時刻です。

() … 徒歩/車を使用した場合の時刻です。

領 収 書 等

項 目	研修費		
支出明細	受講料	領収書貼付 用紙の番号	2
<p>領 収 証</p> <p>2022 年 7 月 7 日</p> <p>大村泰史 様</p> <hr/> <p>★ ￥20,000</p> <p>但 7/7 10時～ 基礎からわかる認知症問題 7/7 14時～ 基礎からわかる学校統廃合 研修会受講代として</p> <p>上記正に領収いたしました</p> <p>地方議員研究会 〒530-0001 大阪府大阪市北区 大阪駅前第2ビル2 TEL 050-6868-3678</p> 			

調査研究報告書

令和5年 4月 4日

島田市議会議長 大石 節 雄 様

議 員 大 村 泰 史

令和4年度の調査研究テーマに基づく活動等について、次のとおり報告します

※調査研究テーマを下記5項目としました

- 1 まちづくりについて
- 2 福祉について
- 3 子育て・教育について
- 4 業務委託について
- 5 森林環境譲与税について

※全体の総括

令和4年度においても前年度同様、コロナ禍の影響で感染防止策により移動制限や各種イベントの中止、密集を避ける等の処置がとられた1年でありましたが結果として、唯一7月に開催されたセミナーへの受講ができました

1. まちづくりについて

まちづくりについては今回研修等を受講する機会がなく報告するに至りませんが令和5年度より運用が開始されるPFI事業による金谷地区生活交流拠点に関わる、特に金谷公民館の民営化に伴う諸問題についての取り組みは契約期間15年もの長きにわたるものであり、将来にわたり金谷地区のまちづくりにおいて大変課題を残すこととなり残念ではありますが引き続き、継続して調査研究してまいります

2. 福祉について

福祉については今回高齢化が進む中、認知症問題についてのセミナーを受講することができました

セミナーを受講しての感想として、そもそも認知症は治ることが難しい病気であるという事を再認識させられました、介護保険制度制定の経緯を知る中

で高齢化率が高くなっていくにつれて政策が変わっていき高齢化に伴う認知症等の発生が社会的問題を多く招いている現状も再認識させられました、これからの取り組みとして認知症高齢者等にやさしい地域づくりが大切であり、認知症の予防に力を入れていく必要性を知ることができました引き続き、継続して調査研究してまいります

3. 子育て・教育について

子育て・教育については今回令和6年度に向けて学校統廃合が予定されている点についてセミナー受講ができて良かったと感じています

セミナーを受講しての感想として、国として直面する学校統廃合について文部科学省のスタンスを知り、学校の小規模化に伴う教育上の課題の顕在化を知ることができました、今回受講したセミナーは学校統廃合は地域の反発が強く如何に地域の反発に対応していくかが課題であるという事について、その対応に重きを置いているものであった、本市においての学校統廃合の進め方はあまりにも統合ありきで進められた節があり、今後の地域住民及び本市全体に及ぼす影響を改めて心配する機会となった、閉校後の廃校施設等活用実態調査結果からも活用に至っていない率が25%もある状況であり、本市の活用を見守るだけである

また、コロナ禍において新型コロナワクチン接種に関する子育て中の若い世代の親御さんたちが問題意識を持った取り組みについては理解し共に子供たちのことを優先に係ることを重視し、見守って行くと共に、子育て・教育について継続して調査研究してまいります

4. 業務委託について

業務委託については今回研修等を受講する機会がなく報告するに至りませんが継続して調査研究してまいります

5. 森林環境譲与税について

森林環境譲与税については今回研修等を受講する機会がなく報告するに至りませんが当市の7割近くを占める森林面積の維持管理や有効利用に向けての森林環境譲与税の活用を見守って行くと共に、継続して調査研究してまいります

報 告 書

令和4年9月26日

島田市議会議長 大石節雄 様

島田市議会議員 大村泰史 ㊟

市政調査研究（調査研究・**研修**）のため、出張したので報告します。

出張年月日	令和4年7月7日
1 調査研究 出張先及び 調査項目 2 研修 研修名、出張先及 び主催者	研修名 基礎からわかる認知症問題 基礎からわかる学校統廃合 出張先 リファレンス新有楽町ビル(新有楽町ビル2階) 東京都千代田区有楽町1丁目12-1 主催者 地方議員研究会 大阪府大阪市北区梅田1-2-2
報告事項	○セミナー項目 講義1 基礎からわかる認知症問題 講義2 基礎からわかる学校統廃合 ○講義内容&感想 【講義1】 1. そもそもアルツハイマー病とは 2. 介護保険制度を30分で理解する 3. これからの認知症への取り組み 4. 認知症問題の取り上げ方 ○そもそもアルツハイマー病とは 脳の正体、今昔 昔 古代エジプト(紀元前5000年) 心は心臓に宿る ヒポクラテス(紀元前400年) 心は脳 ⇒奇人扱い レオナルドダヴィンチ(西暦1500年) 心は脳 ⇒解剖 今 成分 脂質60% タンパク質40% 重量 150mlの脊髄液に浮く体重の2%

脳のも動力

ブドウ糖 ⇒脳のも1日消費カロリーは約500カロリー

神経伝達物質 ⇒脳内に100種類以上存在

(ドーパミン：カテコールアミン系)

脳を五感別に解剖 (大脳表面積割合)

視覚 83% 聴覚 11% 嗅覚 3.5% 触覚 1.5% 味覚 1.0%

神経伝達物質と病気

伝達物質	放出 (大)	放出 (小)
ドーパミン	統合失調症	パーキンソン病
ノルアドナリン他	そう病	うつ病
アセチルコリン	パーキンソン病	アルツハイマー病

認知症は症状でアルツハイマーは病名

海馬を中心に脳のも萎縮、短期記憶力が低下

認知症は症状によってカルテが違ふ

長期記憶が残存、それを活かして音楽療法等に参加

○介護保険制度を30分で理解する

介護保険法

目的 ・ ・ その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう ・ ・

介護保険 ・ ・ その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう ・ ・

介護保険制度制定の経緯

年代	高齢化率	主な政策
1960年代 高齢者福祉政策の始まり	5. 7 % (1960)	1963年 老人福祉法制定
1970年代 老人医療費の増大	7. 1 % (1973)	1973年 老人医療費無料化
1980年代 社会的入院や寝たきり 老人の社会的問題化	9. 1 % (1980)	1982年 老人保健法制定
1990年 ゴールドプランの推進	1 2. 0 % (1990)	1994年 新ゴールドプラン策定
介護保険制度の導入準備	1 4. 5 % (1995)	1996年 連立与党3党政策合意

2000年 介護保険制度の実施	17.3% (2000)	2000年 介護保険施行
--------------------	-----------------	-----------------

介護保険制度の基本的な仕組み

財源構成 保険料 50% 公費 50%

介護保険制度のこれまでの改正

介護保険制度の現状と今後

75歳以上の高齢者数の急速な増加

65歳以上高齢者のうち、認知症高齢者が増加していく

○これからの認知症への取り組み

認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)

認知症高齢者等にやさしい地域づくり

認知症への理解を深める⇒普及・啓発の推進

小・中学校で認知症サポーター養成講座を開催

認知症の容態に応じた医療・介護の提供

認知症初期集中支援チームの設置

若年性認知症施策の強化

認知症の人の介護者への支援

認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進

認知症の予防法等の研究開発及び成果の普及の推進

認知症の人やその家族の視点の重視

認知症の予防はできる

健脳食の実施⇒日常食のシンプル化⇒ご飯&味噌汁

脳エクササイズの実施⇒ステップエアロ等

休脳日をつくる

○認知症問題の取り上げ方

第2号被保険者の受給要件別割合

認定調査の特記事項の扱い

認知症サポーター養成講座の市域内普及

若年性認知症の居場所づくり

【講義2】

1. 我が国が直面する学校統廃合
2. 地元の学校がなくなる！その時の議員としての関わり方

○我が国が直面する学校統廃合

通知から知る文部科学省のスタンス

公立小・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引の策定

小・中学校では一定の集団規模の確保が望ましい

公立小・中学校の学級数の標準や通学距離の条件を示す

⇒しかしながら近年、子供の社会性育成機能の低下や

少子化の進展が中長期的に継続、学校の小規模化に伴う

教育上の課題の顕在化

⇒学校統合により魅力ある学校づくり

新教育委員会制度

新教育長 ⇒ 教育長と教育委員長を一本化

総合教育会議 ⇒ 全ての自治体に総合教育会議を設置

大綱 ⇒ 教育に関する大綱を首町が策定

まち・ひと・しごと創生法

人口急減・超高齢化 ⇒ 政府一体で取り組む

○地元の学校がなくなる！その時の議員としての関わり方

寝屋川市の学校統廃合 ⇒ 小中一貫教育、英語教育の推進

廃校の官民連携の事例分類

直営(寝屋川市)

池の里市民交流センター、教育研修センターとして利用

無償賃貸(南あわじ市)

アグリミュージアムNADAとして利用(30年間無償賃貸)

有償賃貸(大東市)

アクティブ・スクエア・大東として利用(有償賃貸)

売却(淡路市)

のじまスコーラとして利用(完全民営化)

PFI方式(橿原市)

市庁舎として利用

参考

平成30年度 廃校施設等活用状況実態調査の結果

施設が現存する廃校の数	6 5 8 0 校
活用されているもの	4 9 0 5 校(74.5%)
活用されていないもの	1 6 7 5 校(25.5%)
用途が決まっているもの	2 0 4 校(3.1%)
用途が決まっていないもの	1 2 9 5 校(19.7%)
取り壊しを予定	1 7 6 校(2.7%)

新生校という言葉の誕生

新生校に求められる3条件

宿泊施設を有している

ビジネススタートアップの機能を有している

地元雇用に貢献している

【感想】

○講義1 基礎からわかる認知症問題

・全体を通して、講師の経歴を活かした内容であったこと。

認知症問題に関しては医学博士として認知症は脳細胞(主に海馬)が委縮し、それは生まれ変わったり、再生しないことで短期記憶力が低下する病気であるという事を前提に認知症問題を考えなくてはならないという説明から始まった

厚生労働省データによると認知症患者人口は2012年は対高齢者人口で7人に1人、2025年には5人に1人になるという事

脳を五感別にみると視覚が83%であり人間は視覚からの情報が最優先であり、見た目は肝心であり私たちは大半のことを見た目で見判断してしまうという事を確認できた

介護保険制度についての講義があったが介護保険法の目的と介護保険そのものも説明が「その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう・・・」と記述されており

高齢化率の上昇とともに法律という名のもとに介護保険制度制定の経緯の説明を受け理解できたことはよかった

尚、介護保険制度の現状と今後として75歳以上の高齢者数の急速な増加及び65歳以上高齢者のうち、認知症高齢者が増加していくという事であり、これからの認知症への取り組みとして認知症高齢者等にやさしい地域づくりの大切さ、認知症の予防についての講義もあり大変参考になった

認知症の予防については健脳食の実施について、日常食のシンプル化(ご飯&味噌汁)に心がけること及び休脳日をつくることの説明があり実践する必要性を感じた

最後に私自身、両親及び妻の両親共々すでに病気で他界しており

認知症の発生に伴う介護等の経験がないことについて恵まれたなど感じています、今後関わる様々な場面で今回の講義内容を十分活かしていこうと考えています。

○講義2 基礎からわかる学校統廃合

・全体を通して、セミナー受講の目的に学校統廃合が決定してしまった状況での実際に統廃合が実施されるまでの問題点の把握および対応についての知識を得たいと考えていたがその点についての講義は無く、学校統廃合は地域の反発が強く如何に地域の反発に対応していくかについての講義だったと感じる

それほどに学校統廃合は難しい問題であること、それは文部科学省・新教育委員会制度・人口急減・超高齢化により政府一体で取り組むべき「まち・ひと・しごと創生法」等のそれぞれの取り組みを通して進められてきた、進められている問題解決対策であること

ほとんどの地域で学校統廃合は反発を生むものであり対応に時間を要するもの、それに比べて我が島田市の対応は上手だったか統合ありきで推し進めていった感があると私は思う、そのことは地域住民にとって後から後悔するものであってはならない

学校統廃合が決定したのであれば進めるしかない、今後は地域住民(統合する方も統合される方も)の要望を如何に取り入れて対処していくことが重要であり行政としての手腕の見せ所であり、満足できる内容であることを期待する

また、今後の閉校となる活用内容が充実したものとなるよう願う
廃校施設等活用状況実態調査の結果からみても活用されていない率が25%超ある実態があり、当市においては官民連携の好事例となることを願うばかりである。

認知症は通訳が要ると知るべし
×フレーズ かきくけこ

か 悲しい がんばろう
き 聞いた、何回も
く くそつ
け けちつ
こ ころつ

認知症になる準備をするべし

・記憶の扉ノート (Life review) を作成する
ADL (日常生活動作) 習得時 (10-40歳) で、
もっとも鮮明な思いでは？

*好きな音楽、テレビ、マンガ、タレント等

認知症になる準備をするべし

・記憶の扉ノート (Life review) を作成する
ADL (日常生活動作) 習得時 (10-40歳) で、
もっとも鮮明な思いでは？

*好きな音楽、テレビ、マンガ、タレント等

認知症の予防はできる

- ▶ 健脳食の実施 (日常食のシンプル化)
⇒ 米 (ブドウ糖)、ビタミンB1 (豚肉、焼き海苔等)
- ▶ 脳エクササイズ (刺激付与) の積極的实施
⇒ 20回咀嚼、ステップエアロ (音楽運動60分)
- ▶ 休脳日 (時間) を作る
⇒ WMNを休息、DMN (内側前頭前野) を稼動
- * WMNとはワーキングメモリーネットワーク
- * DMNとはデフォルトモードネットワーク